

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	9人という少ない人数の者が集まり、家庭に近い生活を仲間と送りながら、散歩や買い物等に出かける等、地域の方ともふれ合う機会を作り、できるだけ自立した生活を送り、穏やかに尊厳のある生活の場を目指した理念を作っている。	○	新たな場所へ移転と同時に、パンフレット等、理念の掲げている中に、地域の中でその人らしく暮らしていることを支えるサービスであることを、盛り込み作り直す。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、ミーティングを行った時には、ケア方法等に関連付けて話している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	会報誌で知らせたり、家族会や家族や地域の方が参加する「陽だまり運営推進会議」等で折に触れ伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に、散歩やゴミ出し等で出かけた時、近隣の方と挨拶を交わしたり、会話をしたりしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの保育園では、毎年運動会等の行事に招待してくれ、出かけている。また、地元の神社のお祭りにも出かけている。また、青葉の家とも、継続した交流を続けている。	○	新たな移転場所は、理事長の住まいの傍であるため、町内会・老人会とも関わりやすく、連携を深める考えである。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として、看護学校生の実習生を受け入れたり、精神障害者の社会適応訓練生を受入れ支援し、本人の介護に対しての専門的知識を身に付けたいという意欲に答え、ヘルパー2級の資格を得る援助をした。	○	平成19年10月からは、社会適応訓練生の雇用に向けて保健所や労働基準監督署、ハローワークと連携をとっている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員が自己評価に目を通し取り組んでいる。また、外部評価の結果を見ながら、職員で改善する所は、それに向けての話し合いをし、改善するよう取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項があった場合は、その原因や経過を報告して推進会議での意見を聞くようにし、その後のサービス向上に繋げようと考えている。	○	運営推進会議を開催する目的の一つに、誰にも開かれたグループホームであると考えてるので、常に閉鎖的にならないように心がけている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「陽だまり運営推進会議」への参加の他、定期的で開催される地区のグループホーム協議会へも市町村担当者に出席を依頼し課題に対して協議するなど、協働関係を継続している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	県市町村等から啓蒙や周知パンフレット等送付があった時等を利用して、職員に知らせている。また、地域において、それに係る研修会があれば、出席するように心がけている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で虐待の防止の徹底を図っている。また、それに係る研修会等あれば、出席するように心がけている。	○	言葉による虐待もあってはならないものと考えてるので、取組みを強化していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、また、医療連携体制等について重要事項説明書等を見ながら丁寧に説明している。契約時には、事業所のケアに関する考え方や取組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、本人や家族等と対応方針を相談している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、本人の思いを聞き取り、経過記録に記入するとともに、ミーティングで話し合ったり、職員間でその方のサービス計画を立てて、改善を図るようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時には、使用者の方の様子等を随時話しているし、職員の異動等陽だまり側の変更等があった場合も機会を利用して知らせるようにしている。また、会報や、利用料請求の送付案内等でも文書で知らせている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	手紙や訪問時、家族会等で常に問いかけ、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。意見を聞いた場合は、ミーティングで話し合い、反映できることはすぐ対応するように心がけている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、意見や提案等を聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通常の利用者の生活に合わせて、職員の勤務を組んでいるが、利用者の状態の変化や、繁忙時には、管理者や理事長等が勤務者のサポートをしている。(参考)配置人員は、平日平均5名程度となっている。	

岐阜県 グループホーム 陽だまり

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員が対応することが重要と考えており、止むを得ず離職する場合は、その時期や引継ぎの面等で最善の努力をしている。</p>	○	<p>開所以来5年7ヶ月となる間に、常勤的な職員の退職者は3人であった。これからも働きやすい環境作りに心がけていきたい。</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19 ○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症介護実践研修など順番に出席させ勉強させている。また、職員は、日々の体験を、経過記録や業務日誌等で示し、職員間で情報を共有し、学びあうようにしている。</p>		
<p>20 ○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>飛騨地区のグループホーム協議会が年に数回行われるため、参加し、情報を交換する事により、陽だまり外の人材の意見や経験をケアに活かすようにしている。</p>		
<p>21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>マニュアルに縛られた働き方でなく、個々の職員が「こうしたら・・・こうした方が・・・」という体験から出てくるケアの仕方を皆で考え、職員が意欲的にケアができるように支援している。</p>		
<p>22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>マニュアルに縛られた働き方でなく、個々の職員が「こうしたら・・・こうした方が・・・」という体験から出てくるケアの仕方を皆で考え、職員が意欲的にケアができるように支援している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の事前面談で生活状態を把握するよう努め、いきなりの入所ではなく、通所で利用してもらいながら本人は陽だまりを、職員は本人を理解するよう努めている。また、利用当初は職員が必ずそばにいて、本人が不安にならないように心がけている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の事前面談で、これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況等、これまでの経緯を聞き、陽だまりではどのようなサービスができるか説明をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの特徴をお話すると共に、老健、特養、デイサービス、訪問介護等も話題に入れながら、その方が求める介護サービスを模索し把握するようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に、陽だまりを知ってもらうため、訪問していただき、管理者等との面談や所内を見学した後、しばらく通所（託老所利用者として）してもらい十分納得したうえで、入所して貰っている。	○	新たなグループホームでは、宿泊を含む託老所も併設できる環境としているので、通所のみでなく宿泊もしていただきながら入所を判断していただける。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を全て管理、指導しようせず、お互いが助け合いながら和やかに生活ができるように場面づくりや声かけをしている。		

岐阜県. グループホーム 陽だまり

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の来訪時に利用者の様子や職員の思いを伝え、また、家族からも昔家庭で過ごした様子や性格等を聞き、気づきの情報共有に努め、一緒に支えようという意向を家族に伝えている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、陽だまりへ訪問し本人との面会を勧めるなど、よりよい関係づくりの維持に努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の知人や親戚、ご近所の方等が、気軽に本人に会いに来てもらえるよう雰囲気づくりに心がけている。また、家族には盆や正月、地元の祭り等つれて出かけてもらうよう機会がある度伝えている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の生活の中で、職員が利用者に会話を仕掛けたり、役割活動等を通して、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。また、利用者同士の関係等について、情報を共有し、全ての職員が心身の状態や気分、感情の日々時々の変化を注意して見守りをしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方に、職員が面会に出かけたり、病院へ入院されれば、仲のよかった利用者と一緒に御見舞に行ったりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情等からその真意を推し測り、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な場合はご家族等から情報を得ている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使い、アセスメントを行い把握に努めている。また、家族にも家族版の用紙を渡し、記入してもらい、生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居後にその方と関わる中で、しだいにその方の性格や、他の利用者と一緒にいる活動を通し、出来る事や出来ない事、出来る力が把握できている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望も把握しながら、課題となる事を職員間で話し合い、介護計画の作成に当たっている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は、定期的に介護計画の遂行状況や効果等を評価している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者全員の利用者毎の介護経過記録を身体的状況や暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録し、いつでも全ての職員が確認できるようにして、介護計画の見直し等に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア団体や社会福祉協議会と協力して、本人が外出したい等の思いを叶えられる支援をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	年に数回、地元の社会福祉協議会等からの呼びかけにより、その催事に参加させてもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	「陽だまり運営推進会議」に地域包括支援センターの職員にも参加していただき、定期的に情報交換をしている。		

岐阜県 グループホーム 陽だまり

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合は、サマリ等の支援状況等を手渡すとともに、情報交換をしている。また、GHの住まいが変わる場合は、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように配慮し、より一層の職員の見守りに取組もうという思いはある。	○	10月にホームを移転予定であり、事前にセンター方式の家族版を、家族に渡す予定でいる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を第三者に提示する場合は、同意書をとることにしている。また、写真等についても事前に使用の了解をとっている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	お茶の時間等は、個々の利用者の飲みたい物を聞き、本人が決める場面を持つようにしている。また、日中の活動でも、やりたい事を聞き参加してもらう等、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して日々の生活を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちにそった支援をしている。		

岐阜県 グループホーム 陽だまり

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>調理が好きな利用者と共に、調理や盛り付け等を行い、食事の時は、職員も同じテーブルと一緒に食べている。片付けも、出来る利用者が職員と共に一緒に行っている。また、現在利用者全員が自力で箸を使い食べている。</p>	○	特に、自分で箸を使い食べるという行為は、今後も維持できるよう支援していきたい。
55	<p>お茶の時間は、幾つかのメニューにより、利用者が選択してもらう等、楽しめれるようにしている。</p>		
56	<p>時間やその人の習慣を把握して、トイレ誘導をする事で、トイレでの排泄を促している。排泄について気になる方には、排泄チェック表を使用して把握し、排泄が気持ちよく出来るように支援している。</p>		
57	<p>一日の内、午前・午後の時間に分散し、一人一人ゆったりと入っていただけれるよう、入浴時間を長く取っている。また、その人に一番良い時間に入ってもらっている。</p>		
58	<p>なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>得意な分野で1人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。</p>		

岐阜県 グループホーム 陽だまり

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族や本人の希望で、小額の現金を手元に持っている方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の様子もあり、毎日とはいかないが、散歩や外気欲にでかけている。社会福祉協議会等のイベント等には、極力参加している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	社会福祉協議会のイベント等が、一年を通し数回行われるので、全員が参加できるよう支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、家族や友人等に年賀状や暑中見舞いを出すための支援をしている。また、利用者が電話をかけたい時は、かけたい方と話が出来るよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間も特に定めず、いつでも立寄っていただけるよう、気軽に来やすい雰囲気作りに心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症介護研修を順次受けてもらう等、職員全ての理解徹底に心がけている。		

岐阜県 グループホーム 陽だまり

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		


岐阜県 グループホーム 陽だまり

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の訪問時等に、自由な暮らしの大切さと事業所の取組みを機会あるごとに説明し、理解を得られるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、食欲や顔色、様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況により医療機関への受診に繋げている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人ひとりの服薬管理を徹底するため、個々のケースを用意し、日付や名前、朝・昼・晩等と表示し整理して、職員全員が把握できるようにしている。また、服薬時は、職員が薬を手渡し、服薬できているか確認している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃、ふんだんに野菜等の植物繊維が摂れる食事作りに気をつけ、自然な排便を促している。また、体質等で便秘がちな方には、医師の指示のもと処方された下剤等の薬を使用してもらっている。その場合、その人の適量をつかみ、快適な排便になるように気を付けている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きを全員に声かけしている。夕食後の歯磨きは、特に職員が外した入れ歯等の点検や洗浄を行っている。また、近くの歯科医による歯科点検を月一回行ってもらっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日毎食毎に記録を取り、職員全員が利用者の状況を把握している。食べれる量についても、個々の適量を把握し、配膳に気を付けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ホーム内の感染を避けるために、玄関に消毒液を置き来訪者にも、感染予防に協力をしてもらっている。また、利用者や職員が外出から戻った時等は、手洗いや場合によってはうがいをしてもらっている。インフルエンザ対策では、家族に同意を得て、職員共に毎年予防接種を受けている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した調理用具や食器等は、必ず食器洗浄器で洗浄し、清潔に心がけている。食材も賞味期限に気を付けて、早めに使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	元旅館を改装してホームを運営しており、旅館の玄関の特性を活かし、広々とした玄関周りであるため、昔ながらの馴染みの玄関であり、安堵感を持ってもらえているようである。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの建物は、昔ながらの木造建築物で、元旅館であったため、居間・廊下・玄関・台所等スペースが広くゆったりとくつろげる環境である。また、窓を開ければ、すぐ果樹園や山が広がり自然豊かな環境であり、季節感あふれる場所である。そのため利用者にとって昔ながらの生活空間となっている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の各所にもソファを置き、1人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。また、居間も広く、作業や食事等多目的スペースを真ん中に置き、その両側にソファ・テーブル・TVを置き自由に座れるようにしている。		

岐阜県 グループホーム 陽だまり

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

岐阜県 グループホーム 陽だまり

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ここは、自然に囲まれた環境で、車の往来も少ないので危険性が少なく、屋外へ気軽に出て行き（散歩）、山菜を摘んだり、辺りに咲いている花を見たり、果樹園で育てているリンゴの実り具合を眺めたり、近所で飼っているワンちゃんや、畑仕事をしてみえる近所の方に話しかけたりと、のんびりと穏やかに日々を過ごせる環境です。ホーム内のスペースも広いので、ゆったりと過ごすことができます。普段の日中は、市内の保育園数園の園児が使用している、卓上ゴミ入れや、園児が掃除する時に使う小さなサイズの雑巾などを、忙しい保育園の要望もあり作ってあげることで、自分も何かに貢献しているという気持ちになれば、充足感や意欲が出る生活ができています。また、一部の利用者は、学校のベルマーク収集活動に協力するため、週一回それが行われるボランティア団体である「ベルマークの会」へ参加させてもらっています。介護を受けているわが身でありながらも、まだまだ出来る能力を活かして社会貢献しているという気持ちは、その人が安心して意欲的に生きる大きな力になっていると思います。また、利用者が皆で、落ち着いて共同生活が出来ているのは、一つに、何かの活動をする時、たとえば掃除をする、散歩をする等の時に、全員で行っているの、毎回スタッフが強く働きかけなくとも利用者同士で声掛け合ってスムーズに行えるという連帯感を保っています。